

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 27 日現在

機関番号：62618

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23242024

研究課題名(和文)方言分布変化の詳細解明 変動実態の把握と理論の検証・構築

研究課題名(英文)Clarifying the detail process of dialectal distribution change

研究代表者

大西 拓一郎(Onishi, Takuichiro)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・時空間変異研究系・教授

研究者番号：30213797

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 38,900,000円

研究成果の概要(和文)：日本全国ならびに長野県伊那諏訪地方・静岡県大井川流域・富山県神通川流域など小地域を対象に言語地理学的調査を実施した。その調査結果をもとに過去の方言分布と比較し、言語変化が方言分布の上でどのように現れるのかを明らかにした。そのことで、方言がどのようにしてできるのかを考察した。

その結果、方言分布は、従来、方言圏論等で考えられてきたような連続的拡散で形成されるものではなく、一定の領域をうめるように形成され、また、形成された領域は固定されるということが基本であることがわかった。調査・分析の結果は、地図集ならびに論文として公表した。

研究成果の概要(英文)：We researched on whole Japan, Ina-Suwa region, Oigawa-basin and Jintsugawa-basin with geolinguistic purpose. We clarified the formation process of dialects with comparing the contemporary distributions of dialects to the past maps.

We reached the conclusions that dialectal distributions formed with filling the areas, and after finishing to fill the area the distributions had fixed. This process we had gotten is different from the traditional theory which has thought the formation processes of dialectal distributions are continuous. The results of researches and analyses are published as atlases and papers.

研究分野：言語地理学

キーワード：言語地理学 方言分布の形成 方言分布の変化 方言分布の経年比較 言語変化 方言分布

1. 研究開始当初の背景

(1) 分布を説明する従来説

柳田国男(1930)『蝸牛考』(刀江書院)が提唱した「方言周圏論」においては、歴史的中央としての畿内・京都で繰り返し発生した言語変化が順次、周圏に伝わり、その結果が日本全国のマクロな分布に反映されているとされる。柴田武(1969)『言語地理学の方法』(筑摩書房)は、これが新潟県糸魚川地方のようなミクロな世界でも成立するとして、方言周圏論を近代的に整備し、「隣接分布の原則」ならびにそれを前提とする「周辺分布の原則」を明らかにした。

以来、日本各地で詳細な言語地図が多数編集され、そこに現れた分布に基づく言語変化の解釈を中心に多くの研究が実施されてきた(馬瀬良雄 1992『言語地理学研究』桜楓社、徳川宗賢 1993『方言地理学の展開』ひつじ書房、など)。これら方言周圏論を核とする理論に基づく研究においては、言語変化は文化的中心地でおもに発生し、それが「地を這うように」周辺部に伝播する(柴田武 1964「方言の分布と変遷」『言語学論叢』55など)ことを前提とする。

一方、方言の分布成立においては、すべてが中央からの変化の伝播に依存するものではないことが古くから論じられてきた。そのひとつは「孤立変遷論」であり、言語変化は各地で独立して起こることがあり、言語変化において知られる一定の方向に従う場合、類似の変化が離れた場所で発生する(榎垣実 1953「方言孤立変遷論をめぐって」『言語生活』24)ことを想定する。また、「多元発生仮説」では、語源に対する同等の発想があれば異なる地域で同等の語形が存在しえるとする(長尾勇 1956「俚言に関する多元発生仮説」『国語学』27)。

これらの説は、方言周圏論に対峙するものにとらえられがちであるが、いずれにおいても展開される考え方は、方言周圏論そのものを否定するものではなく、分布のすべてが方言周圏論で説明できるものではなく、それ以外の説明理論も必要であることを提唱するものである。したがって、方言分布の形成においては、「方言周圏論かそれ以外」という択一ではなく、「方言周圏論とそれ以外」に基づく説明が行われてきたことになる。

(2) 方言分布と言語変化

方言の分布ならびにそれを表す言語地図は、ある特定時点における言語状況を静態的にとらえたものである。言語地図によっては、藤原与一(1974)『瀬戸内海言語図巻』(東京大学出版会)のように複数世代を対象に地図化するものもあるが、その場合でも世代相互の地図間にある時間差は、同時代における相対差であって、絶対時間の差があるわけではない。この点において、多くの場合の言語地図解釈というのは、静態的な分布をもとに一連の方言周圏論(隣接分布の原則・周辺分布の原則を含む)とそれを補う孤立変遷論や多

元発生仮説を用いながら、方言分布の中に見られる言語変化(言語外的要因による交替・同音衝突・類音牽引・混交・誤った回帰・民間語源、言語内的要因による音韻変化・類推・水準化・文法化など)を追究してきたことになる。

このように方言分布は静態的であるものの、その中に動態が反映されていると考えられてきた。同時に現実の方言において、言語変化が生じていることは多くの研究で明らかにされてきた。その多くは世代差に基づく相対的時間差(見かけの時間差)でとらえられてきたが、山形県鶴岡市を対象とした国立国語研究所(1974)『地域社会の言語生活』(秀英出版)のように、特定地域を対象に絶対的実時間の中で言語変化を把握する研究もある。見出された方言の変化は、伝統的方言が共通語に置き換えられていく共通語化であることが多かった。共通語化の場合は、中央からの伝播と言っても地理空間性はあまり有効ではないと考えられる。その点において、共通語化は分布と言語変化の関係を説明するための従前の理論の対象外である。

ところが、さまざまな地域の言語変化がとらえられる中で、すべてが共通語化ではないことも明らかになってきた。たとえば、上記の鶴岡市の研究においても、格助詞サの用法拡大のように共通語化では説明できないとともに方言内での一般的な言語変化(この場合は、文法化)が実時間の中でとらえられている。そのような言語変化が理論に従って分布を変動させているのか。本研究のねらいはここにある。

2. 研究の目的

方言分布の実時間における経年変化を把握し、そこに現れた分布の変動を説明する理論の検証と構築を行うことを目的とする。

中央で発生する順次の言語変化が周圏に拡散することで分布が形作られたと考える「方言周圏論」は、ほぼ定説として受け入れられている方言分布の形成理論である。ただし、そのような拡散により分布が実際に変化するようすは今まで誰も把握していない。分布の経年変化を捉えることで、理論に沿った分布の変動が捉えられたなら、理論の正当性を世界で初めて確認できたことになる。一方、現実と理論の間に隔たりがあるなら、それを補完する新たな理論の構築を行うことが必要である。以上のように本研究においては、現実データをもとにした検証と説明理論の構築を行うことで日本の言語地理学を再構築し、それを通して、言語変異の地理的分布一般に対する考え方を再考するものである。

3. 研究の方法

実時間の間隔を置いた方言分布を比較する。この比較を通して、そこで発生した言語変化がどのように分布変化として現れるかをとらえる。このことにより、方言周圏論や隣接分布の原則をはじめとする従来理論を検証するとともに、現実の変化を説明する

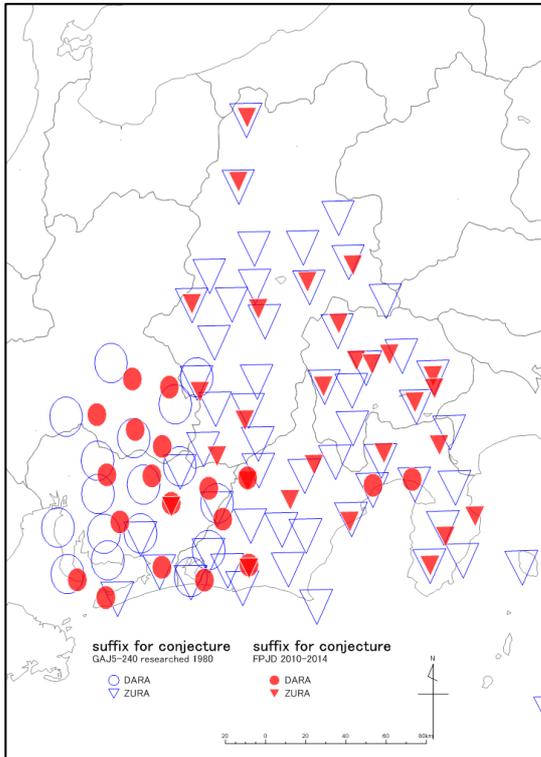


図3 推量辞の変化(ズラ ダラ:ONISHI2014)

引用文献

ONISHI, Takuichiro. (2014) Arbitrariness and motivation in geolinguistics: verification of the "simultaneous change hypothesis" (tagenteki-hassei-kasetsu). Papers from the Second International Conference on Asian Geolinguistics. Bangkok Chulalongkorn University. pp.41-52

ONISHI, Takuichiro. (2015) Starting place and diffusing area of language changes. 8th SIDG Northern Cyprus.

ONISHI, Takuichiro. (2016) Timespan comparison of dialectal distributions. The Future of Dialects. Berlin Language Science Press. pp.377-387

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計14件)

1, 大西拓一郎, 方言の東西, HUMAN, 8, 41-50, 無, 2016年

2, ONISHI Takuichiro, Timespan comparison of dialectal distributions. The future of dialects: Selected papers from Methods in dialectology XV. (Edited by Marie-Hélène Côté, Remco Knooihuizen and John Nerbonne), Berlin: Language Science Press, 377-387, 有, 2016年

3, 中井精一, 富山県神通川流域および庄川流域における火葬場の地域名称について, とやま民俗, 85, 29-33, 無, 2016年

4, 日高水穂, 述語制の表現体系から見る日本語諸方言, 季刊 iichiko (発行:文化科学高等研究院出版局), 129, 27-44, 無, 2016年

5, 日高水穂, 近畿中央部方言におけるシテイル相当形式の動態 現在形と過去形の非対称現象をめぐって, 国文学(発行:関西大学国文学会), 100, 左 85-99, 有, 2016年

6, Chitsuko Fukushima, Tracing real and apparent time language changes by comparing linguistic maps. The future of dialects: Selected papers from Methods in dialectology XV. (Edited by Marie-Hélène Côté, Remco Knooihuizen and John Nerbonne), Berlin: Language Science Press, 363-376, 有, 2016年

7, Chitsuko Fukushima, Sun in Asia, Studies in Asian Geolinguistics, 2, 2-3, 無, 2016年

8, 大西拓一郎, 「いろいろ」の方言分布と火, 五感/五環 文化が生まれるところ(昭和田), 44-51, 無, 2015年

9, 中井精二, 地方経済と方言 - 北陸新幹線開業による言語変化の可能性 -, 日本語学, 第34巻第6号, 14-25, 無, 2015年

10, 中井精二, 牛の鳴き声の地域差と人々の暮らし, BIOSTORY, 24, 20-23, 無, 2015年

11, ONISHI Takuichiro, Arbitrariness and motivation in geolinguistics: verification of the "simultaneous change hypothesis" (tagenteki-hassei-kasetsu), Papers from the Second International Conference on Asian Geolinguistics, Bangkok Chulalongkorn University, 41-52, 無, 2014年

12, 大西拓一郎, 方言分布の変化をとらえた!, 国立国語研究所プロジェクトレビュー, 5, 66-77, 無, 2014年

13, 大西拓一郎, 言語地理学と方言圏論, 方言区画論, 柳田方言学の現代的意義(ひつじ書房), 145-161, 無, 2014年

14, 大西拓一郎, 庄川流域の方言分布からみた自然との対話, 砺波散村地域研究所研究紀要, 31, 24-29, 無, 2014年

〔学会発表〕(計10件)

1, 大西拓一郎, 太陽と語るひとびと, 第7回地球研東京セミナー「人が空を見上げるとき 文化としての自然」, 有, 有楽町朝日ホール(東京都・港区), 2016年1月29日

2, 大西拓一郎, 方言、言語、そしてその領域をめぐって, JLVC2016, 無, 国立国語研究所(東京都・立川市), 2016年2月13日

3, 福嶋秩子, 新潟県の方言資料に見る準体助詞, 第81回新潟県方言研究会, 無, アトリウム長岡(新潟県・長岡市), 2016年3月27日

4, ONISHI Takuichiro, Starting place and diffusing area of language changes, 8th Congress of the International Society for Dialectology and Geolinguistics (SIDG),

無, East Mediterranean University (Famagusta, Northern Cyprus), 2015年9月17日

5, 大西拓一郎, 方言分布と方言区画, 東アジア言語地理学国際シンポジウム, 有, 富山大学人文学部 (富山県・富山市), 2015年11月7日

6, 中井精一, 日本の言語政策と敬語運用能力, Sinposio Internacional de Lingua Japones como Lingua Global, 有, Sao Paulo Brazil (ブラジル・サンパウロ市), 2015年8月10日

7, 中井精一, 魚名の地域バリエーションと分布の特徴, 東アジア言語地理学国際シンポジウム, 有, 富山大学人文学部 (富山県・富山市), 2015年11月7日

8, Chitsuko Fukushima, Reorganization of Verbal Conjugation System in Japanese Dialects: a Case Study in Tokunoshima Dialects, 8th Congress of the International Society for Dialectology and Geolinguistics (SIDG). 無, East Mediterranean University (Famagusta, Northern Cyprus), 2015年9月18日

9, 大西拓一郎, 言語変化と分布変化の理論と検証, 日本語学会 2014年度秋季大会, 無, 北海道大学 (北海道・札幌市), 2014年10月18日

10, 大西拓一郎, 方言形成の要因・過程と分布の変化, 日本語学会 2012年度秋季大会, 有, 富山大学人文学部 (富山県・富山市), 2012年11月3日

〔図書〕(計3件)

1, 大西拓一郎, 長野県伊那諏訪地方言語地図, 私家版, 177, 2016年3月31日

2, 中井精一, 神通川流域言語地図, 私家版, 70, 2016年3月31日

3, 福嶋秩子, 異なる言語地図の総合と比較その3, 新潟県立大学, 42, 2016年3月20日

〔産業財産権〕

出願状況 (計0件)

取得状況 (計0件)

〔その他〕

ホームページ

方言の宇宙 (大西拓一郎)

<http://www2.ninjal.ac.jp/takoni/>

方言研究の部屋 (大西拓一郎)

<http://www2.ninjal.ac.jp/hogen/>

言語地理学のへや (福嶋秩子)

<http://www.unii.ac.jp/~chitsuko/inet/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大西 拓一郎 (ONISHI, Takuichiro)

国立国語研究所・時空間変異研究系・教授
研究者番号: 30213797

(2) 研究分担者

太田 有多子 (OTA, Utako)

椋山女学園大学・国際コミュニケーション学部・助手

研究者番号: 70121374

大橋 純一 (OHASHI, Junichi)

秋田大学・教育文化学部・教授

研究者番号: 20337273

加藤 和夫 (KATO, Kazuo)

金沢大学・人間社会研究域・歴史言語文化学系・教授

研究者番号: 60137015

木川 行央 (KIGAWA, Yukio)

神田外語大学大学院・言語科学研究科・教授

研究者番号: 50327186

岸江 信介 (KISHIE, Shinsuke)

徳島大学大学院・ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部・教授

研究者番号: 90271460

小西 いずみ (KONISHI, Izumi)

広島大学大学院・教育学研究科・准教授

研究者番号: 60315736

澤木 幹栄 (SAWAKI, Motoei)

信州大学・人文学部・教授

研究者番号: 20110116

中井 精一 (NAKAI, Seiichi)

富山大学・人文学部・教授

研究者番号: 90303198

半沢 康 (HANZAWA, Yasushi)

福島大学・人間発達文化学類・教授

研究者番号: 10254822

日高 水穂 (HIDAKA, Mizuho)

関西大学・文学部・教授

研究者番号: 80292358

福嶋 秩子 (FUKUSHIMA, Chitsuko)

新潟県立大学・国際地域学部・教授

研究者番号: 80189935

松丸 真大 (MATSUMARU, Michio)

滋賀大学・教育学部・准教授

研究者番号: 30379218

鎌水 兼貴 (YARIMIZU, Kanetaka)

国立国語研究所・時空間変異研究系・プロジェクト非常勤研究員

研究者番号: 20415615